

環境記者概要 * 終了致しました

カテゴリ：◆環境記者について*募集終了, 平成18年度

投稿日：2006年05月25日

■投稿方法：携帯メール、E-mail、郵送等

■投稿記事：

(掲載方法) できるだけ事実に基づく根拠を確認したものを掲載し、内容については、必要に応じて編集します。

(掲載場所) 環境情報活動センターホームページおよび情報紙など

(写真掲載) 電子容量の大きい情報の場合についてはセンターで編集します。

ただし、編集に時間のかかるものや、技術の要するものについては掲載しません。

(謝 礼) 登録された記者から提供された情報のうち、環境情報活動センターホームページ等に掲載されたものについて薄謝を進呈します。

■情報交換会：年間3回程度、環境情報活動センターで環境記者の情報交換会を行い、記者同士の相互交流を図ります。

カテゴリ：◆環境記者について*募集終了, 平成18年度

投稿日：2006年05月25日

応募方法 *終了致しました

カテゴリ : ◆環境記者について*募集終了,平成18年度

投稿日 : 2006年05月25日

- 応募条件 : 区内在住、在勤、在学の、環境に関心をお持ちの方
- 応募人数 : 20人程度 (中学生以下は保護者の許可が必要)
- 登録期間 : 1年間 (4~3月。年度途中で登録した方は翌年度3月末まで)
一年間情報提供がない場合は、自動的に登録を抹消いたします。
- 応募方法 : 登録申請書を E-mail または、郵送にて環境情報活動センターまで
 - ・ E-mail : center@shinagawa-eco.jp
 - ・ 住所 : 〒140-0003 八潮 5-9-11 環境情報活動センター

登録申請書ダウンロード

[登録申請書はこちら](#)

カテゴリ : ◆環境記者について*募集終了,平成18年度

投稿日 : 2006年05月25日

環境記者 ＊終了致しました

カテゴリ：◆環境記者について＊募集終了,平成18年度

投稿日：2006年05月25日

「今年早々と庭の紫陽花が咲きました！」という写メールや「古着をリサイクルしてみました」など、携帯やE-Mail等で気軽に身近な環境情報をお寄せくださる方を環境記者として登録します。

記者の方から提供していただいた記事や写真を当環境情報活動センターのホームページや情報紙等に掲載していきます。

また、記者同士の情報交換会も開催していきます。

カテゴリ：◆環境記者について＊募集終了,平成18年度

投稿日：2006年05月25日

涼を求めて(打ち水大作戦しながわ2006)

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年08月11日

期日：平成18年7月29日午後3時

場所：戸越銀座商店街

梅雨明け宣言が出ていない「大暑」の時期7月29日戸越周辺の商店街約3kmにわたって「しながわに涼しい風を吹かせよう」「打ち水大作戦しながわ2006」と題した催しが行われ、戸越銀座商店街(戸越1-15)では「ドライミスト」の設置に伴い実験が開始されました。

ドライミストは「乾いた霧」を放出する装置で、デモンストレーションとして第2京浜国道と清水坂の間約100mの商店街に向かい合わせのドライミストが設置され、午後3時から試験運転が始められました。



淡い霧が漂う中、商店街、品川区、東京都環境局の方たち関係者の挨拶の後、商店街会館に設置されたドライミストの垂れ幕が外され運転を始めました。夏の期間3ヶ月の運転を3年続けて効果を観るそうです。

また、道路ではドライミストの運転と同時に、地元のサッカー少年たちによって水鉄砲による打ち水が一斉に行われました。ペットボトルの水を何度も追加して行っていました。



この式典の後は、近所の子もたちも一緒に水鉄砲やジョウロを使って水撒きです。水撒きというより水遊びの感覚で、珍しい光景のカメラを向ける人も大勢いました。



この日は、今にも雨が降りそうになったり、急に青空が出たりと極めて不安定な天候でしたが、商店街に設置された温度計は午後3時には気温31.7℃、地表面33.6℃だったのが30分後には気温30.7℃、地表面31.9℃になったということで効果はあっ

たようです。ただドライミストと打ち水を同時に行っているので、どちらの効果が大きいのかは残念ながら分かりません。

乾いた霧といっても100mの間に4機設置されていたので、自宅でカメラのレンズを調べたら少し曇っていました。

私の故郷は熊本で、湧水の豊富な所です。幼い頃、舗装された道路はバス通りくらいで路地に比べて極めて暑く、散水車が出て道路を冷やしていました。そんな思い出があります。今では路地もあちこち舗装され車も多くなり、見なくなりました。

記事提供：内田 雅弘様(環境記者登録No,060104)

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年08月11日

一日で3度色が変わる『酔芙蓉』の姿を追いました

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月15日

■撮影日時 9月7日

■撮影場所 旗の台（民家）

朝は純白、昼過ぎには淡い紅色、夕方からは濃い赤に変わり、花を閉じ翌日には落花する『酔芙蓉』の姿を追いました。酒を飲むと顔色がだんだんと赤みを帯びるのに似ていることからこの名がついたといわれています。一日で色が変わり落花していく、一見華やかでいて、もの静かな花です。

●午前10時



●午後1時半



●午後4時



芙蓉の園芸品種 アオイ科 8～10月の花
記事提供 内田雅弘様（環境記者NO.060104）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月15日

品川第一地区祭りにて、エコまる君のPRをしてきました！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月27日

エコまる君とは、環境省主催子どもエコクラブ<http://www.env.go.jp/kids/ecoclub/>のイメージキャラクター。今回、エコクラブ会員の『空の会』http://shinagawa-eco.jp/mt_supporters/eco/cat132/さんが、自ら着ぐるみをかぶりエコまるをアピールしてくれました。



エコまる君に入っていたのは、空の会会員で、キックボクシングのプロを目指している19歳から25歳の3名。

「子どもに喜んでもらえてよかったね！」

「暑くて汗ダラダラ！でもこれも練習です！」

子どもの夢を壊すまいと、暑い中人目のないところで着替えをしていた彼らの感想です。

■撮影日時 8月20日（日）

■記事提供 ジャスミンさん（環境記者NO.060201）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月27日

品川区に〜ツマグロヒョウモン〜が飛び回っています！！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月03日

羽の全体の色は橙色、ただし、羽の先端は黒色の中型の蝶を品川区内で見かけたことがありませんか。捕まえようとする、敏捷でなかなか捕まりません。それは、ツマグロヒョウモンという蝶です。一見、蛾のような色をしています、蛾ではありません。

私は、昼間は土曜、日曜しか家にいませんが、今年の6月以降、何度も見かけています。昨年は見ませんでした。日が照っているときに、民家の庭、あるいは公園の花や緑が多い日の光のあたるところで多く見られました。家族や知人の話を総合してみますと、どうやら、今年は品川区内に広く分布しているようです。



●出典 蝶の図鑑<http://j-nature.jp/butterfly/index.shtml>

撮影：「蝶の図鑑」有田忠弘

ここで、図鑑から、ツマグロヒョウモンとは、どんな蝶なのか見てみましょう。

書物「チョウ◆、◆」（渡辺康之著 保育社 平成3年4月発行）より

ツマグロヒョウモン タテハチョウ科

【形態】

前翅（※）長27～38mm。暖地性のヒョウモン類で、♂（オス）と♀（メス）で斑紋が異なる。後翅表の外縁が紫色にふちどられる。♀は前翅表の羽端が黒紫色、中に斜白帯をもつ。カバマダラに擬態（※）するといわれる。裏面は前翅が橙色をおび、後翅は黄褐色の地色に、緑色斑がある。

【分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州、南西諸島。記録は北海道までであるが、土着しているのは、本州以南の温暖地に限られる。南西諸島には広く分布する。移動性があり、夏から秋にかけて北上、東進する。

【出現期】

沖縄諸島以南では周年成虫がみられる。九州以北では、第1回目目が2～5月に羽化する。秋までに年4～5回、発生を繰り返す。幼虫、蛹で越冬する。

【生態】

市街地でも見られる。畑、河原、山地の草原など様々な環境に棲む。ヒヤクニチソウ、コスモス、セイタカアワダチソウなどで吸蜜する。♂は山頂に集まり、占有行動をとる。

【食草】

スミレ科のスミレ、サンシキスミレなど。

【幼虫】

体長45mm。地色は黒色、背面に橙赤色の太い縦線があり、胴部には棘をもつ。

※ 翅（し）：羽のこと 擬態（ぎたい）：色や形を似せること

以上のとおりですが、本来南方系の蝶であることがわかります。それがなぜか、東京23区に堂々と飛んでいるわけです。何となくビックリしませんか。じつは、我が家には日本古来のスミレ（マスミレ）の植わった鉢がありますが、そこに幼虫が4頭（匹）いるのを、8月中旬に見つけました。マスミレの葉が、かなり食べられているのに気づき、ナニモノかと見てみたら、それが図鑑に示されているツマ

グロヒョウモンの幼虫でした。マスマレの細長い葉はあまり大きくないので、体長が数10mmに及ぶ虫に食べられるとみるみる減っていくので、異常に気付いたという次第でした。

幼虫は何度か脱皮しながら大きくなり、いつしか食草から離れた場所で蛹（サナギ）になります。我が家の幼虫も何箇所かにある鉢のマスマレを与えて、エサ切れにならないように注意していたら、体長45mm位まで成長して、いつしか順番に姿が見えなくなりました。どこかで蛹になり、順調にいけば、その後2週間後くらいには羽化して品川区を羽ばたいていることでしょう。

このツマグロヒョウモンが品川区に土着するかどうかは何年か様子を見る必要がありますが、サンシキスマレは園芸用植物で、そんなに珍しい草ではありませんので、これを食草としているのは強みで、きっと住み着くでしょう。

蝶の世界では、この数十年、南方系の蝶が生息域をどんどん北に広げていることが明らかになってきています。その一例が、「朝日新聞 2005年（平成17年）7月17日号」に「温暖化で北上してきたチョウをさがそう 南国の使者ご近所に」という見出しで一面を使って掲載されました。

虫たちにとっては、年平均気温が1℃上昇するというのは大変な環境の変化です。それまで生息できなかった地域が、生息できる地域になったという種類の虫も当然、あり得るわけです。

これからも、自然界では、さまざまな変化がきっと起きてきます。あなたも身近なところで何か発見をするかもしれません。

以上

■記事提供 布川憲満（記者NO.060107）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月03日

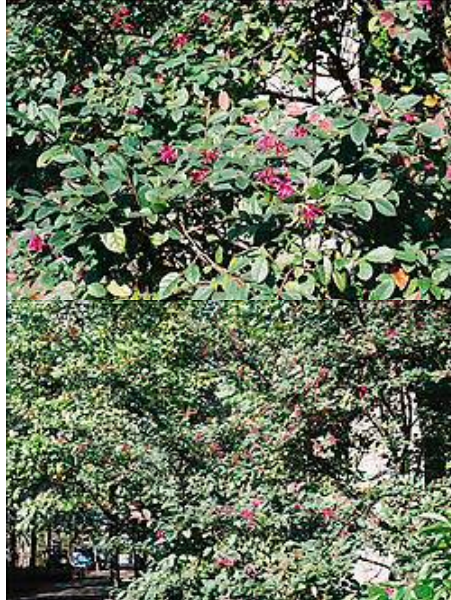
秋なのに「ベニバナトキワマンサク」が満開です・・・。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月26日

●撮影日：10月11日（水）

●撮影場所：しながわ区民公園



しながわ区民公園では、通常4月ごろに咲く「ベニバナトキワマンサク」が満開になっています。

最近の気候が、春の気候に似ていることが原因と考えられます。

実は、今春に咲いた後、8月にも咲いていたので、今年3度目の開花。

温暖化は確実に花たちの成長を狂わせてしまっています。

■記事提供 内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月26日

のびっこ園台場をレポート！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月26日

先日10月10日に機会があって、台場小学校横ののびっこ園台場（幼稚園・保育園）を見学させていただきました。



園長先生によると、ある方がお調べになったところでは80種類の植物！がこの園庭だけでもあるとのこと。この時期、いちじく、ざくろが実り、こどもたちが、その実を採ろうとジャンプする元気いっぱいの姿が見られ、ついついかわいい野生児？の姿に頬がゆるみました。（わが子にも、こんな体験をさせたい！でもこの都会で一体・・・）

菊もつぼみをもち、ススキも穂をひらかせ、春にはいちごが実ったそうです。大きなオクラが育ち、ぶどう棚もありました。

幼児期に、こんなに自然囲まれた場所で過ごせるって、ある意味財産だなあとおもいました。贅沢をいえば、幼稚園のクラスをかたどった人工池「きらきら池」に金魚さんが泳いでいましたが、ここが、金魚も住めるビオトープになったら・・・と、今後に期待したいです。

■記事提供 武田ひろみ（記者NO.060109）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月26日

第1回 環境記者情報交換会が開催されました!

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2006年11月16日

10月28日土曜日、環境記者同士の初の顔合わせとなる、情報交換会が開催されました。

「目黒川にアユがきました」「地域でゴミ拾いをしました」「こんなエコ生活しています」「リサイクルでこんなものづくりました」等、身近な情報を環境情報活動センターまで提供して下さる方、それが『環境記者』です。区内にたくさんの環境記者を設けることで、地域に根ざした環境情報をセンターに集約し、ホームページや情報紙などを通じて、再度広く区民に発信しようというネットワークをつくらうというのです。

この環境記者として登録してくださっているのが、下は20代から上は70代まで、職業や経歴もさまざまな方々16名。そのうちの10名が、お忙しい中、環境情報活動センターまで足を運んでくださいました。



センターによる趣旨説明のあと、自己紹介へ。長年、町会で役員をしいていた方、青少年育成・健康推進分野など地域で社会貢献活動に励んでいる方、商店街連合会にて環境活動に取り組んでいる方、病気をきっかけに品川の街並み・四季折々の花を日々撮影するようになった方など、とにかく、皆さん長年地域に根差した社会活動を行い、区民に届けたいメッセージをたくさん抱えているようです。1時間という用意された時間では、討論の時間が足りなかったようです。

まずは、ご自分の地域の「環境」に関する情報を、よい情報も悪い情報もすべて洗いだして提供してくださればよいとセンターは考えます。その情報を発信することによって、新しく議論の場が生まれたり、環境活動への第一歩を踏み出す方がいたり、環境問題には興味のなかった方が何かしらの「気づき」を得たり、とにかく何かしらのアクションを引き出すこと、それが環境情報活動センターの役割なのだと思います。

3ヶ月後に再度情報交換会を開催することをお約束し、閉会になりました。その後も、皆さんそれぞれ名刺交換をしたり情報交換をしたりと、声をかけあっていました。まだ動き出したばかりの環境記者制度。まずは記者同士が仲良くなり、交友を

深めていただきたいです。
環境情報活動センターでは、まだまだ環境記者を募集中です。皆様のご応募をお待ちしています。

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2006年11月16日

「ふろしきの包み方教室」を開催しました

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月06日

11月11日(土)北品川児童センターにて行われた「かっぱっこまつり」で「ふろしきの包み方教室」が開催されました。

このイベントは東品川児童センターと北品川児童センターが主催しているもので、エコ、リサイクルなど、身近に出来る取り組みを紹介し、環境問題を考える契機になれば・・・という主旨のもと、地域の子供達を中心となって企画運営しているイベントです。



当日は、雨にも関わらず、会場内は大盛況！

普段、ふろしきに馴染みのない子供達は、「自由に包んでみよう！」という声かけに、戸惑いながらも一生懸命包んでいました。中には、講師が次々と紹介する包み方にかたっぱしから挑戦する子も登場。すっかり風呂敷フリークとなり、一緒に来ていた親御さんに教えるといった光景も見られました。工夫次第でさまざまな表情を見せる風呂敷の楽しさを皆さんも是非体験してみてください！！



ここで包み方の一例をご紹介します。下記のアドレスをクリックして下さい。柄次第では、かなり可愛くなりますヨ♪

<http://www.shinagawa.or.jp/file/src/up0050.pdf> (リンク)

他にも「こんな包み方知ってます！」という方は品川区商店街連合会(黒滝)まで情報をお寄せ下さい。

- 記事提供 黒滝陽子 (登録NO.060202)

カテゴリ: 平成18年度

投稿日: 2006年12月06日

戸越公園のヒマラヤ桜が開花しています

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月22日



戸越公園北口、薬医門前では、地域の方から贈られたというヒマラヤ桜が、例年のように11月半ばに開花しましたが、その後の開花が遅れ、12月の半ばようやく2～3分咲きです。

ヒマラヤ桜は、冬の寒さと夏の暑さには弱く、マイナス2～3度から33度ほどの標準的な日本の気候で育つそうです。10月下旬、紅葉が始まる時期に落葉し、直後に芽が出て開花し、本来11月下旬に満開になる花だそうです。戸越公園でも、以前は11月下旬が見頃でした。



ヒヨドリが時折飛んできて、露を飲んで飛んでいきます。

12月下旬が見頃となりそうです。冬の桜もいいものです。足を運んでみてはいかがでしょうか。

- 撮影日 平成18年12月17日
 - 撮影者 内田雅弘（環境記者NO.060104）
-

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月22日

品川区役所の植え込み・オリーブの木に実がつかました

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月27日

品川区役所の正面入り口左側の植え込みに、オリーブの木がありますね。黒い実がなっているのを見つけました。実際に実が付いているのは初めて見ました。

オリーブは高温や乾燥に強い樹木で、数十年、数百年と実を結びつづけるそうです。多用途で利用でき、実は食用オイルやピクルス、石けんや化粧品原料になり、搾油後の絞りカスは飼料に、木目が美しく堅い材は家具や雑貨になります。もちろん燃料としても使え、オリーブの産地スペインでは、オリーブのバイオマス発電などもあるのだとか。



オリーブはいただいて塩漬けにしたことがありますが、上手にできなくて棄ててしまいました。いい方法をご存知の方がいらしたらおしえていただきたいです。

- 撮影日 平成18年12月25日
 - 記事提供 長久保 慶子（記者NO.060102）
-

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月27日

延山くすのき公園の『みどりと花のボランティア』を皆さんにご紹介します

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年01月15日

菅本さまを中心とした6人のグループが、延山くすのき公園の片隅の花壇を『みどり
りと花のボランティア』として整備してくださっています。



たまたま中延2丁目に住んでいた草花いじりの好きな者同士が、5坪程度の放置さ
れていた池上線の通路脇の荒れた空き地に目をつけたそうです。植物が好きだった
皆さんが、地域の住民が緑や花にふれあえる場所にしたいと立ち上がり、手入れを
始めました。



リサイクル材を利用した柵やたなが自作されていて、草花を大事にされていること
がよくわかりました。今では、小さな植木と草花が、四季を通じて楽しめるよう
になったと、日焼けした顔で皆さんが話されていました。

花壇の草花は、大部分を自費で購入していたそうですが、その後品川区の草花の植
え込み用花壇とされ、以後は管理を任せられ年3回程度草花の苗を植えているそう
です。今日はその植え込みをされていました。

植え込みをした草花を、有志の方々が毎日この場所に通って大事に守ってられる
姿を見るに付け、これが本当のボランティアだと感じました。

今年の夏はひまわりがことのほか良く育ち、道行く人の評判が良かったそうです。
お年を召した方々が、朝夕の散歩で心が休まる場所として楽しみに立ち寄られ、世
間話をしているそうです。

また、この場所がちょうど延山小学校の通学路にあたり、子供さんの往路の元気
な顔を見ているのも楽しみだそうです。



近頃、せっかく努力して育てていた草花の中に、心無い愛犬家が犬を花壇に入れてしまい、草花を掘りおこしたり、ふんをそのままにしたりする光景が見られ、悩んでおられました。

このグループの中心人物は、恩歳77歳。地域の高齢者が活躍できる場所や機会はいくらでもあるのではと感じました。

●撮影日 平成18年12月19日

●記事提供 中西 義治（記者NO. 060108）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年01月15日

しながわ区民公園の梅が開花しています

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年01月26日

今年のしながわ区民公園の梅の開花は1月8日ごろでした。その後、次々と開花しています。

しながわ区民公園の梅の種類は全部で31種類あるとのことで、2月いっぱいはどこかで梅が咲いています。



紅花は、玉光枝垂（上写真左）、八重寒紅(上写真右)、東雲（下写真）が開花しました。



1月8日に開花した玉牡丹です。

夕暮れ時、花を摘みにきたヒヨドリの群れを追い払う人の姿も見られました。

「梅」と言っても種類が多いですね。

皆さんもしながわ区民公園の梅を見に行きませんか？

●撮影日 平成19年1月20日

●撮影者 内田雅弘（環境記者NO. 060104）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年01月26日

荏原神社で寒緋桜が開花しました

「空の会」の壁新聞が、東京都代表に選ばれました！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年02月08日

キックボクシングのかたわら環境活動にも積極的に取り組んでいる『空の会』
(http://shinagawa-eco.jp/mt_supporters/eco/cat132/) の皆さん。
この度、自分たちの環境への取り組みをまとめた壁新聞が、環境省の『こどもエコクラブ』の大会において、みごと東京都の代表に選ばれました！



3月24、25日と行われる全国大会へと駒を進めます！
まずは速報まで！



●記事提供 ジャスミン（記者NO.060201）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年02月08日

第2回 環境記者 情報交換会レポート

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2007年03月03日

2月3日土曜日、環境情報記者による2回目の情報交換会が環境情報活動センターにて行われました。現在、環境記者として登録済みの方々は17名。その内9名の方が参加し、飛び入りの2名の方を交えて会を開催しました。

ひと通り自己紹介を終え、この日の議題になったのが、

- ペットボトルなどのリサイクルについて
 - ・経済合理性の面から考えてみよう
 - ・リユースをもっと促進させるには
 - ・海外の事例は
 - ・品川区商店街連合会のエコスポット事業の紹介
- 環境教育のあり方

などなど。それぞれの知識を寄せ合い、意見を交換しました。

その後、環境記者の視点で捉えた情報を付箋に書き込み、地図に貼って「E C Oマップ」を完成させました。



環境のフレームワークは広く、また、記者の方々もそれぞれに専門の領域があり、なかなかひとつのテーマに絞って課題を突き詰めるのは、こういった会では難しいかもしれません。よく言われる「環境には答えがない」という言葉を思い浮かべました。ただ、こうして意見交換しながら、自分にとっての「環境にやさしいライフスタイル」を確立していくことこそ、私たち個々人が、今最も求められていることなのかもしれません。

まずは、環境記者の方々独自の視点でとらえた記事・写真を公開することで、環境について立ち止まって考えてみる、次に何らかの行動を起こしてみる、そんな方が増えることを目的に頑張っていこうではありませんか。

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2007年03月03日

『目黒川の桜』

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年03月24日

毎年楽しみにしている目黒川の桜の季節が、まもなくやってきます。

品川区を横断している目黒川の桜並木に大勢の見物客が集まって、品川区の街の活性化につながることを期待します。他にも、「御殿山の桜」「花房山の桜」「池田山の桜」も見事です。目黒区と共有する広大な「林試の森」には、多くの家族連れがお弁当を広げて、昔ながらのお花見風景が見られます。このような公共の場で、子供達がゴミ捨てのマナーを覚える良い機会です。



大崎第一地域センター前「亀の甲」橋より（平成18年4月撮影）



クライストチャーチ市内を流れるエイボン川（ニュージーランドにて平成18年12月撮影）

12年振りに訪れたクライストチャーチは緑と花のガーデン・シティそのままでした。

昔の目黒川にもこんな風景があったのかしら？・・・

記事提供 覚張政子（記者No. 060103）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年03月24日

エコカップ少年サッカー3年生大会開催！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年03月24日

エコカップ少年サッカー3年生大会が開催されました

期日：平成19年2月25日～3月18日

2月25日、開会式（戸越小学校）、予選

3月17日、決勝トーナメント（ベスト16）、（しながわ中央公園）

3月18日、準決勝、決勝、表彰式、閉会式（しながわ中央公園）

主催；品川区商店街連合会、品川区少年サッカー連盟



「マイバッグ推進—子どもたちからの環境未来構想—」という環境対策の合言葉で、品川区商店街連合会が中心となり、少年サッカー大会を通して、マイバッグ推進等呼びかけのもので、今年で3回目になります。なお子供たちはユニフォーム姿で、商店街連合会のノーレジ袋運動等のポスターにも出演して、呼びかけを行っています。

品川区では、少年サッカー大会は、毎年開かれています。6年生を中心としたもので、試合に参加できない低学年の少年たちの為に計画された、3年生を中心とした大会です。お母さんたちのチームもあり、多くの両親が、試合で名コーチになります。今年も40チームが参加し、2月25日から8グループに分かれて予選リーグを行い、3月17日、18日はベスト16チームによる、決勝トーナメントです。冬が舞い戻ったような10度という寒い中、熱い闘いが繰り広げられました。結果は以下のとおりです。

優勝・・・FC戸越A

準優勝・・・後地FCドルフィンズA

3位・・・三木フットボールクラブ

4位・・・八潮FC

寒い中、少年たちは必死です。でも、時々空回り、蹴り損ねて転んだり、こぼれ球で、あっけなく点が入ったり、様々でした。1回戦、2回戦と回が進むにつれて、試合のレベルも上がってきます。球の取り合いで、なかなか得点に差がつかず、PK戦もありました。いい試合なのに、先に進めるのは1チーム、歓喜と悔しさの試合です。

18日の3位決定戦からは、皆、気が引き締められました。入場と共に、監督、コーチを含むチーム全員の名前と、審判たちも紹介されました。応援の家族たちは、子供たちの名前が呼ばれるたびに、感激していました。



この日は風が強く、風に打ち勝ったほうが、勝利です。

3位決定戦は、互角の闘い、結局、PK戦にもつれこみました。PK戦の盛り上がりは、1球1球の球の行方に皆必死です。勝ちとった少年たちに負けず、応援の大人たちは、抱き合って喜んでいました。

決勝戦は、優勝したFC戸越チーム、逆風の中、見事なゴールを決めました。大きな1点でした。風に負けない的確な動き、パスは日頃の練習の成果だと思いました。



優勝報告には応援団から盛んな拍手がありました。

表彰式では、1位から4位までに、賞状とカップが、1位には優勝旗も授与されました。

閉会式では「『もったいない』を忘れないください」と挨拶がありました。

最後は選手一同が、役員の方たち、応援の人たち皆に、「有難う御座いました」と挨拶をしました。

●撮影日 平成19年3月18日

●環境記者 内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年03月24日

品川区にツマグロヒョウモンが飛び回っています その2

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年04月07日

昨年秋、本来品川区には見られない南方系の蝶であるツマグロヒョウモンが飛び回っている、という記事を書きましたが、今回は、その続きです。

昨年10月には、我が家のマスマレの鉢植に大小取り混ぜてツマグロヒョウモンの幼虫がいましたが、マスマレも葉を食べられ次第に坊主頭のようになっていました。

そこで、サンシクスミレの鉢をマスマレの鉢を挟むように置きました。大きい幼虫はどこかで蛹になり、現在は越冬していると思われます。問題は昨秋まだ小さかった幼虫です。11月に入るとさすがに寒さが増しますので、いつしか、姿が見えなくなっていました。死んだのか、越冬体制に入ったのか分からないまま、冬が過ぎました。

ところが、今年3月に入り、暖かい日中に冬を通して咲いているサンシクスミレの葉の上に1頭(匹)のツマグロヒョウモンの幼虫の姿を発見しました。何と越冬して生き長らえていたのです。朝、晩はサンシクスミレの根元かどこかに身を隠しているようですが、日中の陽射しの中では姿を見せてくれます。それも少しずつ大きくなっているのが分かります。

3月31日に写真を撮りましたが、その時点で体長は約30mmありました。もう半月もすれば、どこかに移動して蛹(さなぎ)になり、1ヵ月後位には、品川区内を飛び回るのではないかと思います。なお、隣接する鉢植えのマスマレは、この日、冬は根が土中に生きていて、それが葉を出し紫色の花を幾つか咲かせていますが、幼虫の姿はありません。

ツマグロヒョウモンは、本来、蛹か幼虫で越冬するということですが、品川区内のサンシクスミレの根元等には幼虫が越冬していることでしょう。この冬は異常な暖かさゆえ、幼虫が越冬できたのか、普通の寒さでも大丈夫なのかはもう数年かけて観察する必要があるように思います。

何れにしろ、この夏は、品川生まれの茶色一色の♂(オス)、前羽の先端が黒味を帯びた♀(メス)の雄姿が、日のあたる場所には見られると思われます。今後も観察をしたいと思います。



●撮影日 3月31日

●記事提供 布川憲満 (NO. 060107)

カテゴリ : 平成19年度

投稿日 : 2007年04月07日

品川花海道菜の花カーニバル

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年04月08日

期日：平成19年3月31日、午前10時～午後3時

場所：しながわ花海道（勝島運河）

主催：立会川駅前通り繁栄会、品川花海道プロジェクト

共催：勝島運河倶楽部



菜の花も桜も満開となったしながわ花海道で恒例の菜の花カーニバルが開かれ、大勢の家族連れで賑わいました。

運河には屋形船が浮かび、サックスのメロディが心地よく流れていました。

水辺では、演奏に浸りながら、食事です。



土手の上では、櫛団子、ヤキソバ、焼肉、絞りたてのジュース等、模擬店で賑わっています。森の環境に関するパンフレット「親子で考える環境教室」も配られました。



カーニバルの目玉は、ボート遊びです。今年解説された浮栈橋から、Eボート、カッターボート、ドラゴンボート、カヌーが出て、運河を散策、船上からお花見です。開園記念事業が行われている東品川海上公園からも船が到着、お花見客を運んできました。

長閑な、運河の花見風景でした。



また、ボート乗り場の近くでは、絵付け体験も開かれていました。

●内田雅弘（記者NO. 060104）

カテゴリ：平成19年度

投稿日：2007年04月08日